



## 職工扶助卜災害保險(2)

瀧谷, 善一

---

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 28(3):245-274

(Issue Date)

1920-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053162>



## 職工扶助ト災害保險（其二）

神戸高等商業學校教授

商學士 瀧谷 善一

### 四

前述ノ如ク、職工扶助ニ對スル保險ヲ強制スルノ必要アリトシ、抑此種ノ保險制度ヲ如何ニスベキカ。此點ニ關スル問題ニアリ。其一ハ保險組織ノ問題ナリ。

現今多クノ國ニ於テ存在スル保險組織ハ大體（一）私營保險（二）相互保險（三）國營保險ノ三種ナルガ、此等ノ内何レガ最モ良キ組織ナルカ、即チ此三組織ノ優劣ノ問題ナリ。其二ハ保險獨占ノ問題ナリ。即チ前記三種ノ機關ノ二種又ハ三種ヲ併立競爭セシムベキカ、又ハ其内ノ一種ヲシテ保險ヲ獨占セシムベキカ、及ビ獨占セシムルヲ可ナリトセバ、何レノ組織ニ獨占セシムベキカノ問題ナリ。

之レヲ外國ニ於ケル事例ニ見ルニ、左ノ如ク種々ノ立法アリ。

（一）法律ヲ以テ保險機關ヲ指定スルモノ。此ニモ二ノ制度アリ。

(イ)國家ガ自ラ保險機關ヲ設ケ、此機關ニツキ保險スルコトヲ命ズルモノ。

即チ國家ガ保險ヲ獨占シテ自ラ營ムモノナリ。諾威及ビ米國ノワシントン州ニ於ケル制度ノ如キ即チ是レナリ。

(ロ)法律ヲ以テ一定範圍ノ工業主ニ相互保險ヲ組織スルコトヲ規定シ、此機關ニツキ保險スルコトヲ命ズルモノ。即チ相互保險機關ガ保險ヲ獨占スルモノナリ。獨逸、埃太利ニ於ケル制度即チ是レナリ。

(ニ)保險機關ノ自由選擇ヲ認ムルモノ。此場合ニモニアリ。

(イ)營利會社ト相互保險トガ共ニ存在シ互ニ相競争スルコトフイランドニ於ケルガ如キモノアリ。

(ロ)營利會社ト相互保險トノ外ニ國營保險ガ存在シ、互ニ相競争スルコト伊太利、和蘭ニ於ケルガ如キモノアリ。

此ノ如ク、各種ノ制度ハ此等ノ國ニ於テ試ミラレ、吾人ハ其經驗ヲ知ルコトヲ得。然シナガラ、各國ニハ夫々、特殊ノ國情、沿革、制度並ニ組織ノ存スルアリテ、今日ノ結果ヲ齎セルモノナルヲ以テ、一國ニ於テ成功セル制度モ他國ニ於テ失敗セズトモ限ラズ、又反對ニ一國ニ於テ失敗セル制度モ他國ニ於テ成功セズトモ限ラズ。從

ツテ余ハ先ヅ此等ノ國ノ經驗ニ照シ、各種機關ノ長所並ニ短所ヲ比較考察シ、我國ニ適スル制度ニ論及セント欲スルナリ。

## 第一 私營保險

私營保險ノ特長ハ(一)營利會社ガ一定ノ保險料ヲ受ケテ工業主ノ負擔スル扶助ノ責任ヲ引受クルニ在リ。即チ工業主ハ一定ノ保險料ヲ支拂フトキハ其責任ヲ保險者ニ轉嫁シ得ルヲ以テ、(ニ)保險者支拂ハザルトキハ、依然工業主ニ扶助ノ義務存ストナス國モアリ。此種ノ保險ハ工業主ニハ甚ダ便利ニシテ責任輕シ。是レ此種ノ保險ガ多クノ先進國ニ於テ發達セル所以ナリ。

(二)私營保險ノ經營ハ凡テ營利心ノ刺戟ニヨリテ行ハル。從ツテ、此機關ハ廣ク保險契約ヲ獲得スルニ努ムベク、從ツテ保險ノ普及ヲ促スノ利益ヲ有ス。是レ保險ヲ強制セザル場合ニハ非常ニ利益アルコトナリ。保險強制ノ場合ニハ此利益ハ大ナラズト雖モ、猶營利心ノ爲メニ經營上、種々ノ改良ヲ爲シ、保險契約者ニ便宜ヲ與フルコト多シ。詳言スレバ(イ)保險會社ハ保險契約ノ締結ニツキテハ勸誘員等ヲ派シテ其手續ヲ簡便ニシ。(ロ)工場設備ニツキ危險ノ改良スベキ點ヲ指摘シテ保險料ヲ安クスル方法ヲ工業主ニ教ヘ、(ハ)危險ノ改良、變更ニ應ジテ、保險料ヲ

隨時加減シ、以テ保險料ヲ實際ノ危險ニ適應セシムルニ努ムベク、(ニ)且ツ保險事故ノ發生スルトキハ速ニ保險金ノ支拂ヲ爲スベシ。

然シナガラ、私營保險ニハ次ノ如キ缺點ヲ有ス。(一)私營保險ニ於テハ工業主ノ支拂フベキ保險料ハ高カラザルベカラズ。蓋シ、(イ)保險會社ハ營利ノ爲メニ保險ヲ營ムモノナルヲ以テ、保險料中ニ企業利潤ヲ含マシメザルベカラズ、少クトモ投下資本ニ對スル利子ヲ含マシメザルベカラズ。從ツテ保險會社ノ定ムル保險料ハ夫丈ケ高シ。會社間ニ料率ノ協定行ハル、トキハ一層然リトス。(ロ)私營會社ハ相競ヒテ保險契約ヲ獲得センガ爲ニ代理店、又ハ勸誘員ニ手数料ヲ支拂ハザルベカラズ。此手数料ハ競争ノ行ハル、ニ從ヒ増加スル傾向アリ、此亦、保險會社ノ定ムル保險料ヲ高クスルモノナリ。(ハ)保險會社ハ動モ、スレバ保險金ノ支拂ニツキ故障ヲ付ケ、保險金ノ支拂ヲ免レ又ハ保險金ノ支拂ヲ値切ラントスル傾向アリ其結果ハ保險金支拂ニ關スル訴訟ヲ多クシ、且ツ訴訟費用ヲ嵩ムルナリ、此亦保險料ヲ高クスル原因ヲ爲スベシ。

(二)保險會社ハ工場ノ災害豫防設備ノ改良ヲ促ス力乏シ。米國ニ於テハ勞働者賠償保險ヲ營メル會社ハ協同シテ Workmen's Compensation Service Bureau ヲ作り(イ)

専門技師ノ研究ニ依リ、工業ノ種類ニ應ジ、災害豫防設備ノ標準ヲ定メ、工場ヲ此標準ニ近ヅカシメンコトヲ保險契約者ニ勸説シ、(ロ)他方ニ於テハ保險料率表(Schedule)ニハ工場ノ建築、災害豫防設備等ノ長處又ハ缺點ニツキ割増率又ハ割引率ヲ規定シ、各會社協定シテ此料率表ヲ保險契約者ニ適用スルコト、セリ。其結果、保險契約者ハ一時ニ多額ノ費用ヲ支出スルモ、工場ノ設備、災害豫防裝置ヲ改良シテ保險料ノ割引ヲ受クル方、利益ナルコトヲ知リ、其改良ヲ計リタルコト頗ル大ナリ。然シナガラ、此事タル保險會社ノ間ニ協定成立シ、科學的ニ危險ノ研究ヲ爲シ災害豫防準則及ビ料率表ニヨリ協同シテ災害豫防設備ノ改良ヲ計ルコトガ自己ノ利益ナルヲ自覺シテ努力スルニ非ザレバ到底所期スベカラズ。現ニ英國ノ保險會社ハ料率ノ協定ヲ行フモ、災害豫防ニ對シ貢獻スル所著シカラズ、我國ニ於テハ當業者ノ協同ノ困難ニシテ科學的研究ノ看却セラル、ハ火災保險業ノ例ニ依ルモ推測スルニ難カラズ、從ツテ私營保險ノ下ニ在リテハ災害豫防準則並ニ保險料率表ノ制定ニヨリテ、工場ノ改良ヲ期スルコト困難ナルベシ。

(三)且ツ保險會社ガ相競争スルニ於テハ保險契約ヲ獲得スル必要上、或種ノ工業主特ニ大工業主ニ對シ保險料ヲ割引ク結果、小工業主ノ負擔ハ比較的多クナリ、保

險料ノ公平ヲ失スルニ至ルベシ。

(四)私營會社ハ營利主義ノ下ニ嚴重ニ危險ノ選擇ヲ爲スヲ以テ、炭坑ノ如キ大災害ノ發生スル恐アルモノ、保險ヲ引受ケザルコトアリ。又既婚者又ハ身體上缺點アル者ヲ使用スル工業主ニ對シ、之レガ解雇ヲ迫ルコト外國ニ於テ其例アリトイフ。此ノ如キハ企業ノ安全ヲ害シ、勞働者ノ職業ヲ奪フモノナリ。

## 第二 相互保險

此組織ノ特長ハ(一)營利ヲ目的トセズ、從ツテ保險料中ニ企業利潤ヲ含マシムルヲ要セズ。又代理店若クハ勸誘員ニ手数料ヲ支給セザルヲ以テ此經費ヲ節約シ得ベシ。從ツテ保險料ハ其レ丈ケ安クナルベシ。

(二)工業主ハ保險事業ノ經營ニ參與スルコトヲ得。尤モ、凡テノ工業主自身ガ直接ニ保險ノ經營ニ當ルニ非ズシテ、何レハ保險事業ニ通ゼル人ヲシテ經營ノ任ニ當ラシムベシト雖モ、保險事業經營上ノ重要問題ニ關シテハ工業主ノ代表者ヨリ成ル理事會ガ指示ヲ與フルコト、ナルヲ以テ工業主ハ剩餘金ノ分配、保險金ノ支拂方針ニツキ、其意見ヲ容レシムルノ便益アルナリ。

(三)災害豫防設備ノ改良ヲ促スニ適ス。蓋シ獨逸ニ於ケルガ如ク同種事業ニ從

事スル工業主ノ團體ガ相互保險ヲ營ムニ於テハ、災害ノ發生多ケレバ即チ團員タル工業主ノ負擔大トナリ、反之、災害ノ發生少ケレバ、工業主ノ負擔自ラ小トナルヲ以テ、工場ノ建築、工程、器具並ニ災害豫防設備ノ完否ハ直接ニ各工業主ノ金錢的利害ニ關係ヲ有ス。從ツテ、此等ノ團員ハ災害豫防準則ヲ作り之レニ從フコト、シ且ツ時々専門ノ技師ヲ派シテ工場ヲ検査セシメ、其獻策ニ從ヒ危險ノ改良ヲ行フニ至ルモノナリ。實ニ獨逸ノ災害保險制度ノ成功セルハ此災害豫防ノ改良ニ因ルコト大ナルハ多クノ識者ノ一致セル意見ナリ。(註一)

(四)獨逸ニ於ケルガ如ク相互保險ガ同種工業ニ從事スル工業主ニヨリテ作ラルルトキハ、其種ノ工業ノ他ノ種ノ工業トノ間ニ保險料ノ負擔ノ公平ヲ期スルコトヲ得ルノミナラズ、保險經營ノ任ニ當ル者ハ其種ノ工業ニ附隨スル危險ヲ熟知スルヲ以テ同種工業中ニ於テモ、保險料ヲ各工場ノ危險ニ應ジテ定メ、一ノ工場ト他ノ工場トノ間ニ保險料ノ公平ヲ期スルコトヲ得ベシ。

(五)保險金ノ支拂額ヲ實際ノ必要ニ應ズルヤウニスルニ便ナリ。蓋シ此組織ニ在リテハ工業主ハ災害ノ程度ヲ測定シ、支拂保險金ノ決定ニ直接又ハ間接ニ參與スルコトヲ得、而シテ工業主ハ災害ノ性質、職工ノ性行等ヲ熟知スルガ故ニ容易

ニ適當ナル保險金ノ要求又ハ詐僞的要求ヲ發見スルコトヲ得ルト共ニ正當ナル要求ヲ理解シ、コレニ應ジテ保險金ノ支拂ヲ爲スヲ得ベシ。獨逸ニ於ケル相互保險<sup>46</sup>ノ訴訟費ノ少キハ同國ニ於ケル制度ガ保險金ノ支拂ニツキ當ヲ得タルニ因ルコト大ナリ。

之レニ對シ、相互保險ノ缺點トスル處ハ(一)其支拂ヘル保險金ハ保險ニ加入スル工業主ニ割當徵收スルヲ本則トス。然ルニ此種ノ組織ニ在リテハ一職業又ハ一地方ヲ一ノ保險團體トスルヲ以テ危險平均ノ範圍狹キニ失シ、年ニヨリテ損害ノ程度ニ少ナカラザル變動ヲ來ス恐アリ。從ツテ、工業主ノ負擔ハ年ニヨリテ異ルベク(尤モ毎年多少ノ餘剩ヲ生ズル程度ニ保險料ヲ豫メ徵收スルトキハ此限ニアラズ。)且ツ災害ノ大ナルトキハ工業主ノ負擔幾何ニ上ルヤ測リ知ルベカラズ。其責任過重ナル感アリ。殊ニ保險制度創設時代ニハ基礎的統計ノ缺如ニヨリ又ハ此種ノ保險ノ性質トシテ、保險金ノ支拂ハ長キ期間ニ亘ルコトアルニヨリ、工業主ノ感ズル危險ハ一層大ナリ。サレバ相互保險ハ相當ノ成功ヲ收ムル迄ニハ大ナル努力ヲ要スベク、又非常ノ危險ヲ履マザルベカラズ。從ツテ、自然ノ儘ニテハ其創設ヲ見ルコト困難ナルベシ。

(二)相互保險ニ在リテモ良好ナル成績ヲ擧ゲンガ爲メニハ相當ニ保險事業ニ經

驗アル者ヲ招聘シ、經營ノ衝ニ當ラシメザルベカラズ。然ルニ相互保險ハ營利會社ノ如ク、高キ給料ヲ出スコト能ハズ。又政府事業ノ如ク官吏ノ待遇ヲ與フルコトニヨリ比較的薄キ待遇ヲ以テ良キ經營者ヲ得ルコト困難ナリ。サレバ、相互保險組織ハ獨逸ニ於テハ成功ヲ見タルモ、必ズシモ常ニ成功ヲ收ムルコト能ハズ、失敗ニ歸セル例モ少ナカラザルナリ。

### 第三 國營保險

國營保險ノ特長トスル所ハ(一)國家ノ信用ヲ保險制度ニ與ヘ最モ確實ナル保險ヲ提供シ得ル點ナリ。

(二)非營利主義ニヨルヲ以テ、株主ニ配當ヲ爲ス必要ナク、又代理店若クハ勸誘人ニ手数料ヲ支拂フコトナキヲ以テ經費ヲ節約スルコトヲ得ベシ。且ツ經營ノ任ニ當ル者ハ官吏ノ待遇ヲ受クルヲ以テ比較的安キ給料ヲ以テ之レヲ得ラルベシ。此等ノ結果ハ保險料ヲ安クスルヲ得ベシ。殊ニ國家ガ一般經費ヲ國庫支辨トスル場合ニ於テ一層然リトス。

(三)同ジク非營利主義ナル相互保險ニ比シ國營保險ノ利益トスル所ハ國家ハ一定ノ保險料ヲ收メテ其危險ヲ凡テ引受クル點ニ在リ、<sup>(註)</sup>此點ニ於テハ國營保險ハ

寧ロ私營保險ノ場合ト同ジク、工業主ヲシテ保險ニ依リテ職工扶助ノ責任ヲ保險機關ニ轉嫁セシメ得ルモノナリ。

(四)支拂保險金ノ決定ハ直接ニ金錢上ノ利害關係ヲ有セザル官吏ニヨリテ爲サル、ヲ以テ、寛大ニ且ツ公平ニ行ハレ易シ。從ツテ此點ニ關スル紛争ヲ少クスルコトヲ得ベシ。

之レニ對シ國營保險ノ缺點トスル所ハ(一)之レガ經營ノ任ニ當ル官吏ハ其財政上並ニ經營上ノ成功ニ對シ利害關係ヲ感ズルコト株式會社ノ經營者ノ如ク痛切ナラザルヲ以テ、動モスレバ事務ノ敏活ヲ缺キ、經營ノ改良行ハレズ、冗費ヲ増加スル傾アリ。且ツ私營會社ト競争ノ地位ニ在ルトキハ惡シキ契約ヲ引受クルコトトナル恐アリ。

(二)官吏ノ任命ガ政治上ノ關係ヨリ行ハレ易キ國ニ於テハ經營者ニ有能ノ士ヲ得ルコト困難ナリ。且ツ保險事業ガ政治上ノ影響ヲ受ケ易シ。是レ米國ニ於テ國營制度ニ反對スル論據ナルガ、我國ニ於テハ此種ノ弊害ハ少カルベシ。

(三)保險料率ヲ危險ノ變化ニ應ジテ適當ニ定ムルコト困難ナリ。料率ヲ法律ヲ以テ定ムルトキハ時勢ノ變化ニ應ジ、新シキ經驗ニ照シテ、絶エザル改良ヲ加フル

ニト困難ナリ。其結果ハ保險料ノ負擔ノ不公平ヲ惹起シ、計算ノ基礎ヲ殆クスル  
恐アリ。是レ諾威ニ於ケル國營制度ノ十分成功ヲ收メ得ザリシ原因ナリ。保險  
料率ノ制定ヲ法律ニ依ラズシテ命令其他簡便ナル方法ニ依ルトスルモ、猶實際ノ  
事情ニ適スルヤウニスルニハ後ニ述ブルガ如キ特別ノ制度ヲ要スベシ。

(四)此ノ如ク危險ノ程度ニ應ジ料率ノ加減ヲ嚴重ニ行フコト能ハザルノ結果ハ  
料率制度ニ依リテ工場ノ設備、災害豫防設備ノ改良ヲ促スコト少シ。

(五)保險金ノ支拂ハ官廳事務ノ常トシテ遲延スル傾アリ

(六)保險事業ノ經營ハ官吏ノ手ニヨリ行ハレ相互保險ノ場合ノ如ク工業主ガ之  
レニ參與スルコト能ハザル缺點アリ

(註) 1) *Schwedman and Emery. op. cit. p. p. 273—327.*

(二)尤モ米國ニ於ケル國營保險中ニハ純然タル相互主義ニヨリ國家ハ財政上ノ責任ヲ有セザル  
モノアリ。

## 五

前述ノ如ク、此等三種ノ保險組織ニハ各特長ヲ有スルヲ以テ、國家ノ政策トシテ  
ハ此等ノ三種ノ保險機關ノ設立ヲ許シ、其併立ヲ認ムベシト論ズル者アリ、蓋シ

多クノ工業主中ニハ保險會社ト契約シテ、契約ノ締結、保險金ノ支拂等ニツキ便利ナル取扱ヲ受ケ、且ツ扶助ノ責任ヲ保險會社ニ轉嫁スルコトヲ欲スル者アラン。又ハ、相互保險ヲ組織シ、保險事業ノ經營ニ參與シ、且ツ剩餘金ノ分配ニ與ランコトヲ欲スル者アラン。更ニ又、國營保險ニ依リテ、確實低廉ナル保險ノ保護ヲ受ケント欲スル者アラン。凡ソ各人ノ思想ノ傾向、利害ノ打算ハ必ズシモ同一ニ非ザルヲ以テ、此等三種ノ組織ヲ認ムルコトハ各工業主ヲシテ其欲スル處ニツキ保險セシムルノ機會ヲ與フルノ利益アリ。且ツ此三種ノ組織ヲ認ムルニ於テハ其優劣ヲ判斷スルノ經驗ヲ得ルノ便宜アリ。加之、此等ノ組織ニシテ、互ニ相競争セシムルニ於テハ保險料ノ低減、保險金支拂ノ寛大迅速等經營上ノ改善ヲ促シ、各其長處ヲ發揮シ、短所ヲ矯正スルノ効果アリ。サレバ一國ノ制度トシテ此等三種ノ機關ヲ設ケ、其間ニ競争セシムベキナリト。

然シナガラ余ノ觀ル所ニテハ此種ノ保險ニ於テハ自由競争ノ餘地ハ他ノ事業ニ於ケルガ如ク大ナラズ。成ル程、競争ニ依リテ保險經營上ノ改良行ハレ、保險者ハ契約ノ締結、保險料ノ低減及ビ保險金ノ支拂等ニツキ勉強スベキモ、保險機關ハ元來事故ニ因ル負擔ヲ多數ノ者ニ分配スルニ過ギザルヲ以テ、他ノ工業ニ於ケル

ガ如ク、競争ニ依リテ、技術ノ進歩ヲ促シ、生産費ノ節約、生産額ノ増加ヲ齎ス等ノ利益ヲ來スコト少シ。他方ニ於テ、自由競争ノ結果ハ却テ、

(一)各保險機關ハ契約獲得ノ爲メニ多クノ手數料ヲ其代理店又ハ勸誘人ニ支拂ハザルベカラザルコト、ナルベシ。國營保險、相互保險モ又競争ノ下ニ在リテハ此種ノ費用ヲ支出セザルベカラズ。且ツ各種ノ機關ガ夫々保險經營ニ要スル組織、設備ヲ立テ人員ヲ配置セザルベカフズ。例ヘバ各種ノ保險機關ハ別々ノ事務所ヲ設ケ、其事務員ヲ置カザルベカラズ。是レ設備及ビ組織ノ重複ニシテ、一國全體ヨリ言ヒテ無益ノ出費タリ。サレバ競争制度ノ下ニ在リテハ附加保險料ハ非常ニ大ナリ。例ヘバ米國ノ多クノ州ニ於ケルガ如ク、保險會社ガ競争シテ營業スルトキハ附加保險料ハ扶助金一弗ニツキ六十仙ヲ要ス。英國ニ於テモ之レヨリ高キコト確實ナリ。相互組織ノ成績極メテ良好ナルモノト雖モ、競争ノ下ニ於テハ附加保險料ハ三十仙乃至三十五仙ナリ。然ルニ獨占ノ場合ニハ此經費ノ割合ハ遙ニ少ク例ヘバ獨逸ノ相互保險ニ在リテハ十六仙、諾威ノ國營保險ニ在リテハ十五仙、オランダリオ州營保險ニ在リテハ十三仙、オハイオ州ニテハ十二仙、ワシントン州ニテハ九仙ナリ(註一)以テ自由競争ノ下ニ於テハ經費大ニシテ、獨占制度ノ下

ニ在リテハ經費ノ節約セラル、コトヲ知ルベシ。

(二)競争制度ノ下ニ於テハ此等三機關ノ間ニ非常ナル協調ト好意トガ存スルニ非ザレバ(而シテカ、ルコトハ甚ダ困難ナリ)災害豫防設備ノ改良ヲ期シ難シ。蓋シ諸種ノ機關ガ互ニ競争シテ保險契約ノ爭奪ニ從事スルトキハ工場設備ノ不全ナルモノモ之レヲ引受ケザルニ於テハ他ノ保險者ニ契約セラル、恐アルヲ以テ保險者ハ料率制度ニ依リ又ハ災害豫防準則ノ制定ニ依リ工業主ヲシテ危險ノ改良ヲ爲サシムルコトヲ得ズ。爲メニ災害ノ減少ニヨリテ保險料ヲ安クスルコト困難ナリ。

(三)加之、自由競争ノ下ニ多クノ保險者ガ保險契約ヲ分取スルトキハ一保險者ノ引受クル契約ハ比較的多カラズ。從ツテ之レヲ多數ノ分類ニ別チ保險原價ヲ算出セントスレバ所謂平均ノ法則行ハレズ。從ツテ正確ナル料率ヲ見出スコト能ハザルベシ。之レガ矯正策トシテ、保險料算出ノ爲メニ編成スル統計ノ分類ヲ粗大ニセザルベカラズ。從ツテ一ノ種類ノ工業ト他ノ種類ノ工業トノ間ニ公平ナル料率ヲ算出スルコト困難ナルベシ。此ノ如ク料率ノ統計的基礎ノ薄弱ナルニ於テハ保險者ハ如何ニ料率ノ割引ヲ爲スモ、保險契約ヲ獲得セントシ料率ハ著シク

低下スルニ至ルベシ。我國ニ於テ現ニ火災保險ニ於テ此例アリ。尤モ災害保險ハ未ダ經驗ナキヲ以テ火災保險ニ於ケル如ク多數ノ會社ガ設立セラル、トハ考ヘラレザルモ、此種保險ガ強制セラレ、多少ノ年月ヲ經過シ、此種ノ保險ニテ相當ノ利益ヲ收メ得ルコト明トナルニ於テハ競爭劇烈トナリ前述ノ狀態ヲ呈スルニ至ル恐アリ。其結果保險事業ノ基礎ヲ殆クスルノミナラズ、料率ノ不公平ヲ來スベシ。政府ノ監督ハ多少此弊ヲ矯正シ得ベキモ、十分ナル能ハズ。米國ノ如キハ此弊害ノ矯正策トシテ、料率算定所(Rating Bureau)ヲ設ケ、相當ノ權限ヲ與ヘ料率ノ統一ヲ期シツ、アルモ、政府ノ監督及ビ料率算定所ノ權限ヲ此處マデ及ボサバ、料率ヲ時勢ニ適應シテ隨時變更シ得ザルコト、ナリ、私營會社ノ競爭ノ利益ハ大ニ少クナルベシ。尤モ例令保險獨占制度ヲトリ國家ガ統一的ニ料率ノ制定ヲ行フトスルモ保險料ノ絶對ニ公平ナルコトハ期スベカラズト雖モ此場合ニハ料率算定ノ爲メ統計分類方法ハ比較的細密トスルコトヲ得ベク、從ツテ比較的公平ナル料率ヲ制定シ得ベク、且ツ競爭ナキニ於テハ保險料ハ無法ニ切下ゲラル、コトナカルベシ。

(四)既ニ述ベタルガ如ク保險強制制度ヲ採ルトスルモ、此等三種ノ機關ガ相併立

シテ其何レニ保險スルモ可ナリトスルニ於テハ、保險料ノ計算ニ年度割當制度ヲ採用スルコト能ハズ。蓋シ諸種ノ機關存在スルニ於テハ今日國營保險局ト契約スル者モ次ノ年度ニハ其契約ヲ繼續セズ、私營會社ト契約スル等ノコトアリ年度割當制度ノ根本ヲ破壊スレバナリ。從ツテ自由競爭制度ノ下ニ於テハ年度割當制度ノ採用ニヨリテ保險制度創設ノ際工業主ノ負擔ヲ輕クシ、工業ニ急激ナル動搖ヲ與ヘズシテ保險制度ヲ樹立スルニ不便ナルベシ。

(五)サレバ競爭制度ノ下ニ在リテハ保險料ハ現價割當制度ニヨリテ定メザルベカラズ。此制度ノ下ニ於テハ保險機關ハ將來ノ保險金支拂ノ爲メニ要スル金ヲ毎年ノ收入保險料中ヨリ積立テザルベカラズ。然ルニ此積立金ヲ正確ニ算出スルコトハ甚ダ困難ナルヲ以テ其保險料ノ算定モ亦正確ナルコト能ハズ。加之、此種ノ保險ニ於テハ初メノ間ハ毎年ノ支出ハ其年ノ收入ノ小部分ニ過ギズ。收入保險料ヲ以テ、凡テノ支出ヲ支拂フテ、猶餘リアリヤ否ヤハ長キ年月ノ間、癘疾者又ハ遺族ニ對スル年金ヲ支拂ヒタル後、初メテ知り得ラル、モノナルヲ以テ、保險者ハ動モスレバ、積立金トスベキ筈ノ金ヲ保險料ノ切下ゲ、手數料及ビ保險金ノ寛大ナル支拂ニ充ツルコト、ナリ易ク、事業ノ基礎ヲ弱クスル恐アリ。

自由競争ノ弊上述ノ如シ、此等ノ弊害ハ凡テ獨占制度ノ下ニ於テ、全然除去セラ  
ル、モノニ非ズト雖モ、其或者ハ全ク除去セラレ、或者ハ大ニ緩和セラレベク、職工  
扶助ノ保險ニ於テ獨占制度ノ有利ナルコト疑ヲ容レザルベシ。

註(1) Downey, Organisation of Workmen's Compensation Insurance, Journal of Political Economy 1916, p. 977-978.

## 六

然ラバ如何ナル種類ノ保險組織ヲシテ保險ヲ獨占セシムベキカトイフニ、言フ  
迄モナク、前記三種ノ組織中最モ有效ナル特長ヲ有スルモノナラザルベカラズ。

此等ノ組織ノ特長並ニ缺點ニツキテハ已ニ述べタル處ナルガ、扱其優劣ヲ決ス  
ルニ當リ、如何ナル標準ニ依ルベキカトイフニ、(第一)工業主ノ立場ヨリ言フトキ  
ハ、(イ)保險料安クシテ安全ニ法定ノ扶助ヲ爲シ得ルコト、(ロ)保險料ノ負擔不定  
ノ爲メニ工業經營上不安ヲ齎スコトナキコト、(ハ)保險料不公平ナル爲メ他ノ工  
業主ノ負擔ヲ不當ニ引受ケシメラレザルコト、(ニ)保險事業ノ經營ニ參與シ得ル  
コトヲ欲スベシ。又(第二)職工ノ立場ヨリ言フトキハ、(イ)法定ノ扶助ヲ正當ニ受  
ケ得ルコト、(ロ)此扶助ヲ遲滞ナク受ケ得ルコト、(ハ)此扶助ヲ訴訟其他ノ手數及

ビ經費ヲ要セズシテ受ケ得ルコトヲ必要トスベシ。最後ニ(第三)一般社會ヨリ觀ルトキハ、(イ)保險者ノ財政的基礎ノ鞏固ナルコト、(ロ)保險制度ガ災害防止ニ貢獻スルコト、(ハ)勞資間ノ紛爭ヲ緩和スルコトニ貢獻センコトヲ要求スベシ。就中、

(一) 保險者ノ財政的基礎ノ鞏固ナルコト。

(二) 安キ保險料ヲ以テ安全ナル保險ヲ受クルコト。

(三) 職工ガ法定ノ扶助ヲ正當迅速且ツ手數及ビ經費ヲ要セズシテ受ケ得ルコト。

(四) 保險制度ガ災害豫防設備ノ改良ヲ促スコト。

ハ前記三種ノ組織ノ得失ヲ研究スルニ當リテ比較考量ノ標準トセザルベカラザル最も重要ナル點ナリ。今、此標準ニヨリ、私營保險、相互保險、及ビ國營保險ノ利害得失ヲ簡單ニ論述セン。

(一) 保險者ノ財政的基礎ノ鞏固ナルコトニツキテハ言フ迄モナク、國營保險ハ最も勝レリ。相互保險ト私營保險ト何レガ勝ルヤハ一概ニ言フコトヲ得ズ。私營會社ニシテ大資本ヲ有スル者ノ信用ハ小工業ヲ一團トスル相互保險ノソレヨリ

モ大ナルベシ。然シナガラ、強制保險制度ニヨリテ或範圍ノ工業主ニ保險加入ヲ強制シ從ツテ保險料ノ負擔ヲ強制スルニ於テハ相互保險ノ信用ハ甚ダ増加スベク、私營會社ノ多クヨリモ大ナルニ至ラン。

(二)保險料ニツキテハ相互保險及ビ國營保險ハ最モ低廉ナルヲ得ベシ。相互保險ト國營保險ト何レガ低廉ナルヤハ組織ノ良否、經營ノ優劣ニ依ルコトニシテ一概ニ言フコト困難ナリ。抑、保險料ヲ分解スレバ二ノ部分ヨリ成ル。一ハ扶助ノ實費ニシテ、他ハ附加保險料ナリ。扶助ノ實費ハ、(イ)扶助ノ種類、程度并ニ其支給方法、(ロ)災害ノ度數并ニ程度、(ハ)支拂保險金決定ノ適否ニヨリテ異ル。然ルニ扶助ノ種類、程度并ニ支給方法ハ扶助規程ニ依リテ定マリ保險組織ト關係ナキヲ以テ之レヲ除外シ、災害ノ度數及ビ程度ガ保險組織ト如何ナル關係アルカヲ檢センニ此ハ職工ノ生理并ニ心理狀態ニ關係アルト共ニ工場ノ建築器具、災害豫防設備ニ關係ヲ有スルコト大ナリ。然ルニ工場設備ノ改良ハ相互保險殊ニ同職業ヲ營ム工業主ノ組織スル相互保險ニ於テ最モ有効ニ行ハルコヲ得ベシ。國營保險ニ於テモ制度宜シキヲ得バ相當有効ニ行ハルベク、私營會社ノ場合ニハ工場設備ノ改良ヲ促スニ困難ナルコト既ニ述ベタル所ナリ。次ニ支拂保險金ノ決定ニツキテハ

私營會社ハ最モ注意ヲ拂ヒ、詐僞的請求、過當ナル要求ヲ却クルニ努ムベク、相互保險之レニ次ギ、國營保險ハ最モ寛大ナル傾向アリ。

附加保險料ニツキテハ國營保險并ニ相互保險ハ企業利潤ヲ加算スルノ必要ナク、又獨占制度ノ下ニ在リテハ手數料ヲ要セズ、且ツ訴訟費用少シ。從ツテ附加保險料ハ國營保險及ビ相互保險ニ於テ低ク、私營保險ニ於テ最モ大ナリ。(註一)此ノ如ク凡テノ要素ヲ考察スルトキハ、保險料ハ國營保險及ビ相互保險ニ於テ、私營保險ヨリモ低廉ナルコトヲ推測スルニ難カラズ。

(三)法定ノ扶助ノ支拂ノ正當ニ經費ヲ要セズシテ行ハルルコトニツキテハ國營保險最モ勝リ、相互保險之レニ次グベシ。私營會社ハ屢、不當ニ保險金ヲ支拂ハズ、又ハ減額セントスル結果、職工ハ訴訟ヲ起サルベカラザルコト、ナリ、例ヘ勝訴ノ場合ニハ其費用ヲ自ラ負擔スルヲ要セズトスルモ、猶、手數ヲ要スルコト多ク、又屢、證人トシテ職工仲間ノ出廷ヲ要スルヲ以テ工業主ニモ迷惑ヲ及ボスコトアルナリ。只支拂ノ迅速ナル點ニツキテハ私營會社ハ最モ勝レルガ如シ。

(四)災害豫防ハ相互保險并ニ國營保險ノ下ニ於テハ私營保險ノ場合ヨリモ有効ニ行ルコト既ニ述ベタル所ナリ。

以上述べタル所ハ極メテ重要ナル觀察點ヨリ三組織ノ優劣ヲ考察シタルモノナリ。此他ニ猶、各組織ニ特有ナル、長所、缺點ヲ有スルコトハ既ニ述べタル所ナリ例ヘバ私營保險ノ一定ノ保險料ヲ以テ工業主ノ扶助ノ責任ヲ引受ケ、且ツカ、ル契約ニ對シテハ、盛ニ勸誘ヲ爲シ、工業主ノ世話ナキヤウ種々ノ便宜ヲ計ヒ、相其次第ニヨリテ保險料ヲ加減スル等、工業主ヲ引付クル手段ヲ盡スヲ以テ、外國ニ於テハ今日猶、私營會社ノ繁榮ヲ見ル次第ナリ。然シナガラ、大體ニ於テ此種ノ保險組織トシテ國營又ハ相互組織ガ私營保險ニ勝ルコト前述セル所ニ依リテ明ナリ、現ニ實際ニ於テモ國營保險又ハ相互保險ガ私營保險ノ競爭者トシテ活動スルトキハ漸次私營保險ニ比シ優勢ナル發達ヲ示シツ、アルナリ。(註二)伊太利ノ如キ(註三)米國ノニユー、ヨーク州(註四)カリフォルニア州(註五)ニ於ケルガ如キ是レナリ以テ一般社會ノ意嚮ヲ知ルベク又以テ此制度ノ優レルヲ知ルニ足ラン。殊ニ保險強制ノ場合ニハ私營會社ノ一大武器タル勸誘ノ必要減ズルヲ以テ、一層國營保險、相互保險ノ優勢ヲ示スニ至ルベシ。

上述ノ次第ナルヲ以テ此種保險ノ獨占ハ一私營會社ニ對シ、之レヲ認ムベカラズ。私營會社ニ獨占ヲ認ムルトキハ會社ハ手數料其他ノ經費ヲ節約シ得ベク且

ツ災害豫防設備ノ改良ヲ促シ得ルニ至ルト雖モ、公共的性質ヲ有スル此種保險ノ獨占ヲ營利主義ニ支配セラル營利會社ニ認ムルハ近代ノ思想ニ反スルノミナラズ、獨占ノ弊害ヲ齎スベシ。加之獨占ヲ與フベキ會社ノ選擇并ニ監督ニ關シ困難ナル問題ヲ惹起シ、動モスレバ賄賂其他政治上ノ腐敗ヲ招ク恐アルヲ以テ、獨占制度ヲ採ルトセバ、營利主義ヲトラザル國營保險カ相互保險カニ依ラザルベカラズ是レ民業ヲ壓迫スルモノナリトノ批難アラシモ、元來、職工扶助ハ工業ニ附隨スル危險ヲ其貨物ノ生産費ニ課シ以テ職工ノ不幸ヲ救済セントスルモノナレバ、其利益ヲ受クルモノハ多數ノ勞働者ニシテ其負擔ヲ爲ス者ハ第一次ニハ工業主惹キテハ一般社會ノ消費者ナリ。而シテ、保險制度ハ此保險金、支給并ニ負擔ノ分割ヲ行フモノナルヲ以テ社會的性質ヲ有ス。從ツテ多少、民業ヲ壓迫スルモ獨占制度ノ有利ナル以上ハ之レヲ採用スルコト一般社會ノ利益ヨリ觀テ是認セラレザベカラズ。私營會社ハ此種保險ノ營業ヲ許サレザルモ、此法定ノ扶助以外ニ勞働者ノ傷害保險ヲ營ムコトヲ得ベシ、殊ニ所謂民業壓迫トイフモ、我國ニ於テハ此種ノ保險ハ未ダ變則ノ形ニ於テ小規模ニ行ハレ居ルニ過ギズ、外國ニ於ケルガ如ク、民間ノ保險會社先ヅ大ニ發達シ、具ニ事業創始ノ苦心ヲ嘗メ、現ニ豊富ナル經驗ヲ有

スルニ際シ突然之レヲ買收シ、獨占制度ヲ樹テントスルト大ニ其趣ヲ異ニスベシ。實ニ獨占ノ可否ハ既ニ民間保險事業ガ相當ニ發達セル場合ト今ヨリ新ニ制度ヲ樹テントスル場合トニ於テ多少考察ヲ異ニセザルベカラズ。今ヨリ新ニ制度ヲ樹テントスル我國ニ於テハ先進國ノ經驗ト理論ノ示ス所ニ從ヒ我國情ニ應ズル良策ヲ選擇採用スベキナリ。

註(一)此點ニ關スル報告甚ダ多シ。例ヘバ M. M. Dawson ニ依レバ收入保險料ニ對スル經費ノ割合ハ獨逸ノ相互保險ニ在リテハ一割五分、奧大利ノ相互保險諸國及ビツシントン州ノ國營保險ニ在リテハ一割ナルニ反シ、私營會社ノ夫レハ佛國ニ於テハ二割三分、英國ニ於テハ三割五分、(支拂保險ニ要スル費)米國ニ於テハ五割ニ上ルトイフ。ガハイオ州ノ國營保險ニ在リテハ設立以來ノ經費ノ割合ハ收入保險料ノ一割一分ニシテ一九一六年ノミナラバ此割合ハ六分ヲ超過セズトハ Duffy ノ報告セル處ナリ。尤モ經費ノ割合ヲ其收入保險料ニ對比シテ經費ノ大小ヲ論ズルハ多少當テ得ザル所ニシテ、例ヘバ高キ保險料ヲ徵スルトキハ營業費ノ實數ハ相當ニ多キ場合モ歩合トシテハ左ノミ高ク表ハレザルナリ。サレバ經費ノ大小ノ比較ハ前掲(五十五頁)Donney ノ計算ノ方、正シト考フレド此ニハ私營保險ノ經費ノ高シトイフ他ノ例證トシテ之レヲ掲グルコトトセリ。猶此等ノ數字ニツキテ注意スベキハ相互保險ニ在リテハ獨逸ニ於ケルガ如ク災害豫防ノ爲メニ多額ノ支出ヲ爲スヲ以テ、經費ハ他ト比較シテ多少多クナリ居ルコト、之レニ反シ、國營保險ニ在リテハ一般ノ經費ハ國庫ヨリ支出セラレ。從ツテ實際ノ保險事業ノ經費ハ經費歩合ニ示サルルヨリモ多少、多キコトナリ。然シナガラ、相互保險及ビ國營保險ニ於テ附加保險料ノ

少キコトハ疑問ノ餘地ナシ。

(二)佛國ニ於テハ國營保險ハ餘リ發達セズ。是レ國營保險ハ私營會社、又ハ相互保險ニテ保險ヲ受クルコト能ハズ、又ハ受クルコトヲ欲セザル者ニ保險ヲ提供シ且ツ私營保險ノ弊害ヲ矯正スル位ノ消極的態度ヲ持スルガ爲メナリ。從ツテ佛國ノ例ヲ以テ國營保險ノ不適當ナルコトヲ推斷スルコトヲ得ズ。

(三) Rutinow, Social Insurance, p. 148—149

(四) Labor Law Administration in New York 1917, op. cit. Baldwin, op. cit.

(五) Pillsbury, An Adventure in State Insurance, op. cit. American Economic Review, Dec. 1919.

## 七

然ラバ我國ニ於テ相互保險ノ獨占制度ヲ認ムベキカ、又ハ國營保險ノ獨占制度ヲ認ムベキカ。之レヲ外國ニ於ケル實例ニ見ルニ、相互保險獨占制度ハ獨逸ニ於テ非常ノ成功ヲ收メタリ。國營保險獨占制度ハ諾威ニ於テ創始セラレタル所ナルガ、其成績特ニ良好ナリト謂フコトヲ得ズ。然シナガラ近時諾威制度ノ缺點ヲ改良シテ國營保險ヲ營ムモノ増加セリ。加奈陀ノオンタリオ州、米國ノオハイオ州(此二者ハ保險強制制ニ多少ノ例外ヲ認ム)ワシントン州、オレゴン州、ネバダ州ノ如キ是レナリ、此等ノ内ニテワシントン州ノ如キハ其成績良好ナラズト評セラレ、之レニ反シテオハイ

オ州ノ如キハ大ニ成功セリト稱セラル。(註一)要スルニ此等ノ經驗ハ日猶淺キヲ以ツテ、斷定的ニ國營獨占保險ノ是非ヲ判斷スルノ資料トシテハ十分ナラザル觀アリ。

國營保險ト相互保險トノ長短ノ比較ハ既ニ試ミタル所ナルガ、其優劣ハ一概ニ斷定スルコト困難ニシテ、其組織ノ適否、并ニ經營ノ善惡ニヨルコト多シ、只此ニ相互保險ノ特ニ國營保險ニ勝レリト考ヘラルル點ハ相互保險ニ在リテハ其經營ガ工場ノ實際ニ通ズル工業主ノ自治ニヨリテ爲サル、ヲ以テ、(一)事務ガ圓滑ニ行ハレ、(二)保險料ハ能ク工場ノ危險ニ應ジテ定メラレ、危險ノ變化ニ伴ヒテ隨時容易ニ變更ヲ加ヘラル、(三)保險金ノ支拂ハ災害ノ程度並ニ職工生活ノ實際ニ應ジテ適當ニ行ハル、(四)且ツ工場ノ實際ニ適スル災害豫防設備ノ準則ヲ作り互ニ相戒メテ工場ノ設備ヲ改良シ、災害ノ發生ヲ少クスルノ點ニ在リ。然シナガラ此利益ヲ收メンガ爲メニハ工業主ノ團體ガ結合鞏固ニシテ能ク共同ノ利益ヲ自覺シ、且ツ保險經營ノ任ニ當ル者ニ適當ナル人物アリ。各工業主ハ此人ニ信賴シ、災害統計、工場設備等必要ナル材料ヲ十分ニ提供シ、且ツ此人ノ指定ニ從ヒ災害豫防設備ノ改良等ヲ行フヲ前提條件トスルナリ。

然シナガラ、我國ノ工業主ニハ團體的訓練モ共同的自覺モ少ナキヲ以テ同業者ガ保險ノ如キ複雑ニシテ面倒ナル事業ヲ協同經營シテ獨逸ニ於ケルガ如キ成功ヲ收メ得ルヤ疑ナキ能ハズ。加之、相互保險ノ下ニ在リテハ、各工業主ノ責任、過大ナルヲ以テ、工業主中ニハ之レヲ不安ニ感ズル者アラン。殊ニ此種保險ノ創設ノ際ニ於テ一層然リトス。加之、相互保險ハ毎年、保險料ノ負擔、不定ナル缺點アルヲ以テ、(尤モ毎年豫メ多少高キ保險料ヲ徵收シ置クトキハ必ズシモ不定トハナラズ)自然ノ儘ニテハ我國ニ於テ工業團體ノ相互保險ノ創設セララルコト容易ナラザルベシ。法律ヲ以テ之レガ創設ヲ強制スレバ、成立スベキモ、カクノ如ク強制セラレタル團體ガ十分ニ成功シ得ラル、ヤ疑ハシ獨逸ニ於テスラ、工業主ノ中ニハ或團體ニ屬スルコトヲ不利不便トシテ一ノ團體ヨリ他ノ團體ニ代ランコトヲ請求スル者少ナカラザルナリ。

サレバ余ハ我國ニ於テハ國營保險ノ獨占ガ最モ善キ制度ナリト考フルナリ。國營保險ノ下ニ在リテハ保險強制ノ方針ダニ立タバ、保險制度ノ創設、比較的困難ナラズ。保險事業ニハ鐵道國有ノ如ク固定資本ヲ要セズ。サレバ國家ハ萬一保險金ノ支拂ガ過度ニ大ナリシ場合ニ借入金ヲ爲スカ、又ハ公債ヲ發行シテ資金ヲ調達スルノ權限ヲ附與セラルレバ、保險事業ノ經營ニ必要ナル機關ヲ設置スルノ外、

大シタル資金ヲ要セズシテ、實行ニ着手シ得ベシ。又、之レニヨリテ相互保險ノ場合ニ爲サルベカラザル國家ノ保險監督ノ手數ト費用トヲ節シ得ベシ。而シテ國營保險ニ在リテハ工業主ハ一定ノ保險料ヲ國家ニ支拂フトキハ最モ安全確實ニ扶助ノ責任ヲ國家ニ轉嫁シ得ルヲ以テ工業主ニモ便宜ナリ。只國營保險ハ相互保險ノ場合ノ如ク、保險料率表ノ制度、保險金ノ支拂ヲ實際ノ事情ニ應ゼシムルニ便ナラザルト、危險豫防設備ノ準則、保險料率ノ加減ニヨリテ工場設備ノ改良ヲ促スニ適セザルモ、特別ノ組織ヲ採ルニ於テハ此缺點ヲ補フコト不可能ニアラザルベシ。即チ國營保險ニ於テ、國家ハ凡テノ工業ヲ危險ノ程度ニ應ジテ若干ノ部類ニ分チ、此部類毎ニ收入保險料ト支拂保險金（并ニ必要ノ場合ニハ其部類ニ關スル特別經費）トノ割合ヲ別々ニ計算シ保險料ヲ定ムルノ根底トスルナリ。カクスルニ於テハ各工業主ノ負擔スル保險料ハ大體、其屬スル工業ノ危險ニ從ヒテ定メラレ、一ノ工業團體ノ負擔ヲ他ノ工業團體ガ爲スガ如キコトナクナリ、保險料ノ公平ヲ期シ得ベシ、加之此制度ニ依レバ工業團體ガ災害ヲ少クスルトキハ夫丈ケ其團體ノ保險料ノ負擔ハ輕クナルヲ以テ、自然工場設備ノ改良ヲ計ルコト、ナルベシ。尤モ此等ノ各工業團體ノ計算モ皆國營保險ノ一部ニシテ國家之レヲ統一スルモノナルヲ以テ、或工業

ニ於テ或年ニ偶、大損害ヲ生ズルトキハ、國營保險全體ノ會計ヨリ此保險金ヲ支出スルモノニシテ、其工業團體ノ保險契約者ヨリ、直チニ追徴スルモノニ非ズ。其工業ノ負擔力ヲ考ヘ相當期間ニ互リテ保險料ノ引上ゲニヨリテ前年ノ不足ヲ補フコト、スルナリ。カクスルトキハ、一工業團體ガ獨立シテ相互保險ヲ營ム場合ノ如ク、俄ニ其工業主ノ負擔ヲ増スコトナク、能ク、相互保險ノ缺點ヲ除キ其長所ヲ國營保險ニ應用スルコトヲ得ベシ。

且ツ、上記工業別ニヨル部類毎ニ工業主及ビ勞働者ノ代表者ヨリ成ル諮問機關ヲ設ケ更ニ中央政府ニハ一國全體ノ工業主及ビ勞働者ノ代表者ヨリ成ル諮問機關ヲ設ケ、此等ノ機關ノ意見ヲ聽取シテ、經營上ノ參考トスルニ於テハ保險料ノ決定、及ビ保險金ノ支拂ヲ比較的實際ノ事情ニ適應セシムルコトヲ得ベシ。殊ニ各種工業ニ於ケル災害統計ヲ國營保險局ニ集中スルコトニヨリテ、災害豫防並ニ保險料制定ノ參考ニ供スルコトヲ得ベシ。カクシテ國營保險ノ弱點ヲ大ニ矯ムルコトヲ得ベシ。

最後ニ相互保險ノ利益トシテ考ヘラルル一ノ點ハ此制度ニ依リ、扶助ノ支給ヲ工業主團體ト職工トノ關係トスルトキハ、工業主ノ團體ハ或ハ扶助ノ支給ヲ多ク

スルコトニ依リ、或ハ其支給ヲ迅速ニスルコトニ依リ、勞資關係ノ緩和ヲ計ルニ便ナリト考フルコトナリ。然シナガラ、此ノ如キハ凡テノ工業團體ニ望マレ得ベキニ非ズ。且ツ職工ノ扶助ノ要求ガ將來増加スルニ從ヒ、工業團體ガ保險者タルコトハ却テ勞資間ノ反目ヲ増スニ至ル懸念アリ。寧ロ扶助ノ支給關係ハ勞働者對國家ノ關係トスル方、安全ニシテ、且ツ勞働者ノ爲メニ利益ナルベシ。

註(一)オハイオ州ノ制度ニツキテハ追テ本誌ニ於テ紹介スルコトアルベシ。

## 八

此ノ如ク、國家保險ハ其組織ヲ良クシ且ツ經營當ヲ得ルニ於テハ良キ成績ヲ收メ得ベク、我國ニ於テハ之レヲ以テ最モ適當ナル制度ナリト考フルナリ。而シテ既ニ扶助保險ヲ強制シ、且ツ國家ヲシテ、之レヲ獨占經營セシムルコト、セバ、寧ロ勞働者賠償法ノ代リニ勞働者災害保險ヲ制定スルコトヲ可トセズヤ。換言スレバ、工場法中ノ扶助規定ヲ廢シ、其代リニ災害保險法ヲ設ケ、此法律ノ下ニ工業主ヨリ一定ノ保險料ヲ徵シ、扶助事故ノ發生スル場合ニハ國家ハ勞働者又ハ其遺族ニ保險金ヲ與フルコトヲ可ナリトセズヤ。是レ工業主ニ扶助ノ義務ヲ課シ、之レヲ

保險ニ附セシメ國家ガ事故發生ノ場合ニ保險金ノ支拂ヲ爲スヨリモ當事者ノ關係ヲ單純ナラシムルノミナラズ、此ノ如ク工場法ト獨立シテ災害保險法ヲ設クル方、法律ノ適用範圍ヲ廣クシ又ハ其他ノ變更ヲ加フルニ障害、困難少ク、且ツ他ノ一般勞働保險ト調和統一ヲ計ル上ニ於テ便利ナレバナリ。加之、勞働者賠償ニ代フルニ災害保險ヲ以テスルトキハ、場合ニヨリテハ勞働者ニモ少額ノ醵金ヲ爲サシメ保險金ノ支給ヲ増ス等ノ新制ヲ施スノ餘地ヲ生ズレバナリ。(完結)

(大正九年一月十日稿)

正 誤

前號掲載ノ拙稿中左ノ如ク訂正ス。

頁 行

誤

正

|    |    |              |              |
|----|----|--------------|--------------|
| 三三 | 三  | 工場主          | 工業主          |
| 三八 | 一四 | 所得税          | 營業税          |
| 四七 | 八  | Full Premium | Full Premium |
| 四九 | 四  | 伊國ノ閣員氏       | 氏ヲ削ル         |